女子100 福島（帯南商） 今季日本高校最高 連覇

4×100リレー 男子白樺、女子は帯南商優勝

全道高体連

陸上

（21、22日・函館市千代台公園陸上競技場）

第3日の22日は男女16種目を行った。午前の四百㍍障害準決勝は、男子の佐々木康尊（白樺学園2年）、女子の柴山衣理（帯南商3年）が午後の決勝に駒を進めた。

第2日の21日は男女9種目の決勝などを行った。女子百㍍は福島千里（帯南商3年）が11秒69の今季日本高校最高をマーク、大会新で連覇を果たした。五十嵐友（同2年）も12秒47で4位。男子同は鈴木俊広（白樺学園3年）が11秒00で4位入賞。4×百㍍リレーでは女子の帯南商（柴山衣理、中島悠貴、五十嵐友、福島千里）が47秒40で連覇。男子の白樺学園（黒澤賢一、阿部真光、西貴裕、鈴木俊広）も42秒00で頂点に輝いた。男子やり投げは今田義貴（音更2年）が54㍍16で3位入賞、大場将太（帯農）も6位。女子千五百㍍は清水美穂（札幌静修1年―足寄中出）が6位。同七種競技は佐藤彩香（恵庭北2年―駒場中出）が2位に入った。この日の十勝勢は男女合わせて7選手とリレーチーム2校がインターハイ出場を決めた。

福島 全国頂点へ着実に力

序盤から軽快な走りで決勝に駒

○…22日の女子四百㍍障害準決勝は、前日の女子4×百㍍リレー優勝メンバーの柴山衣理（帯南商3年）が67秒08の1組3着で決勝進出を決めた。

「前日の優勝で気持ちも乗っていたし体もよくなっていた」と序盤から軽快にハードルを越えた。決勝では「悔いが残らないよう自分を出し切りたい」と全国出場権獲得の6位以内を目指す。

福島が猛烈に追い上げ勝利

○…女子4×百㍍リレー決勝は連覇を狙う帯南商（柴山衣理・3年、中島悠貴・2年、福島千里・3年）が恵庭北を追う展開となり、最終走者の福島にバトンが渡った時には大差をつけられていたが、猛烈な追い上げで0秒05差の47秒40で逆転勝利。

柴山は「仲間を信じてやってきて良かった」、五十嵐も「リレーに懸ける思いが強かったので本当にうれしい」と笑顔。

最終日の4×四百㍍リレーでも「リレーが大好きー」と口をそろえる帯南商の記録が期待できそう。

全道高体連は21、22日に各地で競技を行った。陸上競技は21日の女子百㍍決勝で福島千里（帯南商3年）が今季日本高校最高の11秒69で連覇を達成。4×百㍍リレーは女子の帯南商が連覇、男子の白樺学園が優勝した。柔道は団体戦男子で音更が北北海道で3位と健闘。サッカーは帯柏葉が21日の2回戦で強豪の室蘭大谷に0―2で敗れ、帯北は22日に準々決勝で札幌光星と対戦、延長戦の末に4―3で勝利し、23日午前9時半からの準決勝に進んだ。

（古川雄介、宮木宗久、金野和彦）

【女子百㍍決勝】記録への期待が高まる中、福島千里（帯南商3年）は好スタート、中盤から加速し、圧倒的な強さで今季日本高校最高記録で連覇を果たした

「完ぺきの走り」11秒69

女子百㍍準決勝で福島千里（帯南商3年）の記録は「11秒59」。日本高校記録を0秒03超える掲示に会場から驚きの声が上がったが、続く「追い風2・9㍍」のアナウンスで参考記録となり、ため息に変わった。

記録への期待が高まる中、決勝でも圧倒的な強さで11秒69の今季日本高校最高で連覇を達成した。

5月21日の春季サーキット第2戦（帯広の森）で今季日本高校最高の11秒70をマークした福島は、今大会の予選、準決勝と出場選手中ただ1人、11秒台を刻んだ。

決勝でも上下動の少ないフォームでトップスピードに乗った。「練習も自分のペースでできていたので、調子も良かった」と笑顔を見せ、辻吉則監督も「きょうの走りは完ぺき」。

昨年は夏まで国内高校最高を保持していたが、インターハイはけがで無冠。今年は「インターハイで勝つことが目標」（福島）と頂点への思いは強く、体力、精神面ともに着々と力を付けた。

道内では敵なしだが、インターハイは昨年の覇者・高橋萌木子（埼玉栄3年）ら強豪ぞろい。福島は「誰にも負けたくない」と力を込めた。

力を出し切る集中力付けたい

○…女子七種競技は佐藤彩香（恵庭北2年―駒場中出）が4186点で2年連続の2位。「1種目ごとには集中できても7種目全体での集中力が足りなかった」。初日（20日）を2位、2日目も走り幅跳びで2位など安定した得点を刻んだが、最終種目の八百㍍で堀井みな奈（函館大妻3年）につ

女子4×百㍍リレーで連覇を達成した帯南商チームは万歳で勝利を喜ぶ。左から1走・柴山、2走・中島、3走・五十嵐、4走・福島

いていけず3着と逆転Vはならなかった。

昨年の全道新人戦後、帯柏葉から短距離の名門・恵庭北に転入。「周囲がトップレベルの選手ばかりで刺激になる。競技後に、もっとできたと言わないよう力を出し切る集中力を」と向上心を見せていた。

女子七種競技で2年連続の準優勝、笑顔を見せる佐藤彩香（恵庭北2年、駒場中出）

頂点にも41秒台に届かず悔しさ

○…男子4×百㍍リレーは昨年の準優勝メンバー3人が残る白樺学園（黒澤賢一・1年、阿部真光、西貴裕、鈴木俊広・以上3年）が42秒00で、念願の頂点に輝いた。1走・黒澤が好スタート、リードを広げたが、西から鈴木へのバトンパスが一瞬遅れた。それでも、鈴木が追いすがる札幌第一を振り切る力走でゴールラインを駆け抜けた。

優勝は達成したがタイムは目標の41秒台に届かず「うれしさと悔しさが半分ずつ」と鈴木。十勝支部大会から目標を「十勝新」としていたため、4×四百㍍リレーでは「次は（十勝新を）出すしかないですね」（同）と気合を入れ直していた。

男子4×百㍍リレーで優勝した白樺学園チームは「ナンバー1」のポーズで全国での健闘を誓う。左から1走・黒澤、2走・阿部、3走・西、4走・鈴木

自己新で初の全国出場へ

○…男子やり投げは、決勝4投目で54㍍16の自己ベストをマークした今田義貴（音更2年）が3位に入り、初のインターハイ出場を決めた。1投目から手応えを感じた今田は4投目で出場権を獲得。最後の2投は伸ばせなかったが「満足いく結果が出せた」と笑顔。

全国で戦うには60㍍を超えることが必要なだけに、今田は「もっと走り込みをして体を鍛え、インターハイで予選突破を」。

メダル独占狙う

女子千五百㍍6位入賞・清水美穂（札幌静修1年―足寄中出）の話　最初からメダルを狙う予定で先頭に立ったが、最後の400㍍で抜かされ、ついていけなかった。インターハイでは札幌静修の先輩2人とメダルを独占したい。

【男子やり投げ決勝】ゆっくりとした助走からタイミングよく投げた今田義貴（音更2年）は3位入賞

帯北準決勝進出

帯柏葉2回戦敗退 室蘭大谷に0―2

【2回戦・帯北―道文教大明清】帯北のMF⑧野澤直矢（左）が反撃のシュートを狙う

サッカー

（21、22日・釧路市民陸上競技場ほか）

21日に2回戦の8試合、22日は準々決勝4試合を行った。21日の2回戦で道文教大明清（札幌）に逆転勝ちした第1シードの帯北は、22日午前の準々決勝で札幌光星に延長戦の末に4―3で勝利して道代表決定戦となる23日午前9時半からの準決勝に進出した。帯柏葉は2回戦で室蘭大谷相手に善戦したが0―2で敗れた。

◇2回戦

帯北 4（1―2、3―0）2 道文教大明清（21日）

▽得点【帯】①瀬戸↓穴田（前半34分）②野澤↓穴田（後半6分）③佐藤↓野澤（後半26分）④高瀬↓木村（後半26分）【道】①高津（前半25分）②昌間（前半30分PK）

帯北は前半、相手のプレスを受け前半25分に相手FWをフリーにして先制を許した。同30分にPKで0―2とされたが、前半終了間際に穴田がヘッドで押し込み1点差。後半はペースを握り、後半6分に野澤の折り返しを穴田が頭で同点。1人少ない相手を攻め、野澤、木村が立て続けにゴールを決めた。

中心選手の自覚を

勝ち越しゴール決めた帯北・MF野澤直矢（2年）の話　点を決めなきゃ面白くない。2年生ということは考えずに、中心選手と自覚してチームを動かしたい。

◇2回戦

室蘭大谷 2（1―0、1―0）0 帯柏葉（21日）

▽得点【室】①村松↓高澤（前半26分）②森山↓近藤（後半19分）

帯柏葉は前半序盤に早いパス回しでゴールに迫ったが無得点。相手の攻勢にDF陣が体を張って守ったが、前半26分にGKと1対1となり先制された。後半19分にポストの内側を直撃するヘッドを決められ0―2。MF阿部の突破、DF立島の

【2回戦・帯柏葉―室蘭大谷】2点を追う後半、左サイドからのオーバーラップで駆け上がる帯柏葉のDF⑤立島達也（右手前）

ミドルシュートなどで反撃したが及ばなかった。

強豪校に善戦「悔いなし」

○…強豪・室蘭大谷に勝負を挑んだ帯柏葉の阿部史祥主将（3年）は「決定力の差が出た」と無念な表情。室蘭大谷のGK山田賢二（3年、帯広FC、帯四中出）との対決に燃えた帯柏葉GK・吉川悠斗（3年）は好セーブを見せ「力の差はなかった」としながらも涙をこらえ切れなかった。

3年生にとってこの試合が高校最後。「練習を積むにつれて強くなる実感があった。3年間本当に楽しかった」と阿部。吉川も「悔いはない。最後にいい試合ができて相手にも感謝したい」。

◇2回戦

札幌光星 2（1―0、1―0）0 旭川実業（21日）
（PK6―5）

滝川西 3（2―0、1―0）0 名寄
札幌第一 2（0―0、2―0）0 函館大有斗
北見北斗 1（0―0、1―0）1 旭川工業
（PK4―2）

釧路江南 3（1―0、2―1）1 稚内
北海 4（2―0、2―0）0 函館ラ・サール

かちまいスポーツ

スポーツの日程・記録は▼FAX0155-25-2700
掲載写真の申し込みは▼TEL0120-25-9410

北北海道 男子 音更健闘3位

柔道

（21日・上富良野町社会教育総合センター）

第1日は団体戦を行った。北北海道男子は、音更が予選リーグを2勝して1敗で準決勝進出はならなかった。決勝は旭川大が1―1からの代表決定戦の末、優勝。南北の優勝決定戦は東海大四が制した。南北一本で行われた女子は、帯大谷が2回戦で、帯農は1回戦で敗れた。

（決勝以外関係分）

【男子】〈北北海道〉◇団体戦▽予選リーグ▼Fブロック

紋別北 2―1 帯農
帯農 4―1 富良野緑峰
▼Hブロック
音更 2―1 滝川西
音更 3―1 名寄光凌
▽決勝トーナメント▼準決勝
旭川大 4―0 音更
○山部一樹 払腰 工藤達人
○細砂拓介 内また 西島功樹
○湯浅逸人 合わせ技 中川卓也
和田裕睦 引き分け 山端将太
○牧竜司 内また 西垣勇人
▼決勝
旭川大 1―1 旭川竜谷
代表戦で旭川大の勝ち
〈全道優勝決定戦〉
東海大四 4―1 旭川大
▼2回戦
東海大四 2―1 帯大谷
帯大谷 2―1 札幌藻岩
札幌日大 3―0 帯大谷

【女子】◇団体戦▼1回戦

札幌静修 2（1―0、1―0）0 函館ラ・サール
釧路江南 3（1―0、2―1）1 稚内
北海 4（2―0、2―0）0 函館ラ・サール

湯の道具 茶の道 末広屋 中央町2条6 ☎23-7034